

千刈狸の呟き

結婚とは異文化交流である。実家しか知らない状態から、他所の家で生活するようになるのであるから、カルチャーショックは多かれ少なかれあるものと思う。嫁狸が気づいた秋田の義実家あるあるを挙げてみる。

家が広いせいか、冬は雪に閉ざされて買い物に行けなかった時代の名残か、物がないと不安なのか、食料も消耗品も常に大量のストックがある。買いすぎて1か所に収まらず、別の場所に分けて置き、1か所が減るとまた買ってきてしまうようである。まるで木の実を埋めたのを忘れたシマリスのような義母狸。身体によいとTVで見れば、大量に買ってきて、そのまま使わず賞味期限を迎える。ある時は春雨、ある時は高野豆腐…義母の料理に春雨や高野豆腐が出てきたことはない。

義父狸は家の在庫を確認せずに買い物をする。例えば干し芋。もらいものが1箱あるときに新たに買ってきて、孫狸に盛んに勧める。食べないのに…。余った干し芋は義母狸が煮物に入れ(大変不評であった)、ようやく消費した次の日、義父狸はまた干し芋を買ってきて、孫狸に食べさせようとしてしていた。食べないのに…。お菓子やジュースも「誰かが食べるだろう、お客さんが来たら必要だろう」と各種置いてあるが、そんなにお客さんは来ないし、結局食べたいものは各自で買うので、消費するのは買った人。秋田の父さん母さんが脂質や血糖を気にするのは、病院にいる間だけなのだ。

～ 義実家あるある(1) —在庫が多い— ～

嫁 狸

トイレットペーパーやボックスティッシュ、マスク、洗剤、柔軟剤などのストックが多いのは、容易に想像できると思う。必ず使うし、悪くならないし、いつも常備しておいてもらって大変ありがたい。詰め替え用の洗剤や柔軟剤は、10個ずつ。急に孫狸達に言われるのに備えているのであろう、ポケットティッシュや使い捨てカイロ、学習用ノートなども相当在庫がある。ポケットティッシュとカイロは、本当に家じゅうあちこちに置いてある。先日子供部屋を片づけたら、バラバラと70個の使い捨てカイロが出てきた。子供部屋だけで…さすがに多すぎる。学習用ノートは、学年が上がるに従い必要なものが変わるので、買っておいでも使う日が来ず、ずっとそのままになっている。なぜ買ったのかわからないが、100本入りのストローの塊が3つあって、見つけて以来ほとんど減っていない。墨汁も2瓶あるが、これもおそらくこの先も減ることはないだろう。

誰も使っていない食器も服もすごくたくさんあって、もはや在庫ではなく不用品であろうと感じるが、嫁狸は多くを語らない。「そんなにいらないでしょう」と言いそうになる気持ちを抑え、折を見て観察している。ふむふむ、ほうほう、こんなところに大量のシャボン玉が…。ややや、タオルの在庫は放出したつもりだったのに、まだこんなところに押し込まれている…。また新たな在庫品を発見した嫁狸であった(いつか整理してやる!!)。